



私の3冊

尾原恵美

後輩に薦める2冊

栢森良二（著）

顔面神経麻痺のリハビリテーション 医歯薬出版，2010年発行

顔面神経麻痺のリハビリテーションを担当するようになり、まず一通り、かつ、やや詳細に知りたい際に役立ちました。リハビリテーションについて相談する際にも、たびたび見返しています。検査、評価、リハビリテーションを俯瞰でき、臨床イメージしやすくなりました。

田角 勝，向井美恵（編著）

小児の摂食・嚥下リハビリテーション 第2版 医歯薬出版，2014年発行

言語聴覚士は摂食嚥下リハビリテーションにかかわることが多くありますが、NICUや新生児科、小児科を有する病院に勤務していると、お子さんの摂食嚥下リハビリテーションについて相談を受けることがあります。入院中のお子さんに安全にリハビリテーションをすすめていくための発達の基礎知識からリハビリテーションまで幅広く網羅されており、今でも手放せない1冊です。

自分の1冊

鹿島晴雄，種村 純（編集）

よくわかる失語症と高次脳機能障害 永井書店，2003年発行

高次脳機能障害は何か、どのような機序で起こっているのかが推測できないと評価、リハビリテーションの手がかりが得られません。そのヒントをいただける本として、病院に勤め始めたころから、参考にさせていただいています。この本をきっかけに論文にあたることもあります。また、他の方に高次脳機能の症状を説明する際、どのように説明するとわかりやすいかを考えるときの助けにもなります。

■おはら・えみ 言語聴覚士14年目 川崎市立川崎病院リハビリテーション科

急性期病院、回復期リハビリテーション病院を経て、現在の急性期病院に勤務しています。はじめの病院では、難病病棟もあったので、難病関係の本と摂食嚥下関連の教科書が多く、回復期では、脳血管疾患や、嚥下障害、高次脳機能障害などの教科書が増えていきました。現在勤務している病院は、3次救急も有する地域基幹病院のため、幅広く、素早く確認できる本を自然に手にしていることが多いです。